特集1～エレナさんの帰国

毛利　晶 ･･･「エレナさんに訊く」

大和達也 ･･･「エレナさんのサローネに参加して」

特集2～コロナ禍のなかで

金子純一 ･･･「コロナ禍のイタリア旅行」

マリアンナ ･･････「3年もたって、とうとう我が家に！」

会員便り

片桐亜古 ･･･「シチリアの子供たち～国際交流活動に参加して」

安田　琢 ･･････「アルデピアッツァ美唄　30年記念事業」

連載

米倉紘一 ･･･「G･Dアンジェリスの再考と殉教　①」

事務局より

お知らせ ･･････････（菅原明子）

コラム ･･････････イタリア関係の新刊書（毛利晶）

北海道日伊協会会報

VOL. 68号　2022年10月

事務局よりお知らせ

第55回秋季実用イタリア語検定

第55回秋季実用イタリア語検定が10月2日に「かでる2･7」で行われ、2級から5級まで20人が受験しました。[内訳：1級0人、2級2人、準2級1人、3級5人（2人欠席）、4級7人（1人欠席）、5級5人（1人欠席）]。検定は、過去春と秋年2回対面実施されてきましたが、2020年春季検定直前に発令された政府のイベント中止要請により検定協会が大きな経済的損失を受けた事に伴ない、運営費削減の為に春季に限りオンラインでの実施と変更になりました。次回春季検定は2023年3月12日～19日の期間にオンラインで行われます。

第9回オンラインSALONE 開催日、11月21日（月）予定！

『【大航海時代の偉業】伊達政宗が送った慶長遣欧使節とは！ローマに見る支倉常長の足跡に迫ります！』

今回は、画像を使った説明の他に、ローマ市内からの生中継を交えた75分の拡大版でテーマに迫ります。詳しい内容は近日ご案内の予定です。

（日伊協会理事　菅原明子）

コラム　～イタリア関係の新刊書～

自分が半世紀以上も前に高校で学んだ世界史を思い出すと、イタリア史関係で扱われていたのは先ず古代ローマ史、ついでルネッサンス、そしてリソルジメント（カヴール、ガリバルディ、赤シャツ隊）が続き、最後はファシズム（ムッソリーニと日独伊三国同盟）と、あいだの飛んだ点の歴史でしかなかった。この8月に出版された『イタリア史のフロンティア』（イタリア史研究会編、昭和堂2022年）は、こうした高校の授業では闇の時代だった中世を中心に、近世の一部も含めたイタリアの歴史を教えてくれる。18人のイタリア史家（大御所的存在から新進気鋭の研究者まで）がそれぞれ得意の分野を論じ、さらに八つのコラムが話の輪を広げる構成。総勢26名もの執筆者に、歴史を学んでいる私も正直驚きだった。ただコマーシャル面からの要請もあったのだろう本の厚さに限りがあり、1人1人が担当する章の分量はそれほど大きくない。そのためもう少し詳しく論じて欲しかったと思う箇所も少なからずあったのは残念である。そうしたなか、私は自分の好みもあって文化史を扱った第III部の論考がどれも面白かった。加えて、第II部第9章の「境界の領主たちのイタリア同盟」も読み応えを感じた。これは、15世紀なかば5大国（ミラノ、ヴェネツィア、フィレンツェ、教会国家、ナポリ）が勢力を張り合うなかにあってジェーノヴァの渓谷で領地を維持する領主の権謀術数を描いたもので、当時の権力闘争が生き生きと描かれているからである。

（日伊協会副会長　毛利　晶）

編集後記

金子前副会長の跡を継いで、『会報』の編集を担当させていただくことになりました。これまで執筆活動を仕事の一つとしてきましたが、純粋に文章を書く以外に文章作成アプリを操作したことはなく、寄せられた原稿のレイアウトを整えて冊子の形にするという面倒な作業は、会員の乾さんにお引き受けいただきました。編集の方はまだまだ素人の手仕事の域を出ません。ただ試行錯誤を続けるうちに少しは洗練されたものとなることを願っております。

（毛利）

投稿募集中！

●『会報』の発行は4月と10月です。それぞれ3月末と9月末を原稿の締め切り日とさせて頂きます。（※実際の発行は、諸般の事情により翌月にずれ込む場合があります）

●投稿をお考えの方は、発行月の3ヶ月ほど前までにその旨メールでお伝えください（lagoalbano@icloud.com　毛利宛）。

●今後も適宜「特集」を組もうと考えていますが、その折はこちらから原稿の執筆を依頼することがあるかもしれません。どうぞご協力のほど宜しくお願いします。

事務局　札幌市中央区大通西14丁目3番地 みふじビル

電話　090-1306-1974

メール　conhkd@aig-hokkaido.com

特集1　エレナさんの帰国

サローネ・イタリアーノとサローネ・ディターリアの講師として、またイタリア語教室の教師として当協会の活動にご協力いただいたエレナ・フラッカーリさんが、半年の留学生活を終えてこの9月の末に帰国なさいました。帰国に際して、日本とイタリアを比較し気づいたこと、感じたことなどを伺いましたので、9月4日に開かれたエレナさんを講師とする最後のサローネの内容と合わせて報告します。

①「エレナさんに訊く」　毛利晶（副会長）

（毛利）エレナさんがイタリアでこの国の言葉を学んでいたときに想像していた日本と、あなたがここに来てご覧になった現実の日本のあいだに違いはありましたか。

（エレナさん）はい、私は非常に多くの違いに気づきました。最初、私が日本語を独学で学び始めたころ（それは高等学校の最終学年のことでしたが）、私は日本の文化について識りませんでした。そしてそのあとヴェネツィアのカ・フォスカリ大学に通い、文学、社会、哲学といった科目を深く学ぶ機会を得ました。私が持っていた日本のイメージは非常に良いもので、日本の古典文化や、茶道や生け花といった伝統的な芸術や、テクノロジーとデジタルの国日本というイメージなどと結びついていました。しかし日本に来て、思いも寄らなかった多くのことにびっくりさせられました。例えば、列車の切符を買うのに現金を払うこと（イタリアでは、私はいつもスマホにインストールしたクレジットカードと交通機関利用アプリを使っています）。私はまたこれまで知らなかった非常に多くの料理に出会いましたし、また都市が想像していた以上にとても大きい。こうしたことから私は日本に関することを、これまでよりも冷静に見るようになりました。そして日本人の日常生活で、私があまりよく知らなかった面、例えば過労や、多い自殺者数や、その他、大学では教えてくれない面にも関心を持つようになりました。

（毛利）イタリア人と日本人で似ている点、異なる点についてお考えをお聞かせ下さい。

（エレナさん）私の考えでは、イタリア人と日本人は、正反対とは言わないまでも、非常に違います。しかし共通する点もあります。例えば、どちらも美味しいものを食べるのが好きですし、隣人に対して、表現の仕方は異なるものの親切です。またイタリア人であろうと日本人であろうと、サッカーのようなスポーツに人気があります。しかしながら異なる特徴も多い。きちょうめんさ、日本人が大変物静かなのに対して、イタリア人のおしゃべりで、乗り物のなかでも大声で話す傾向、さらにイタリア人は日本人に比べてずっとダイレクトに話します。また習慣にも違いがあります。例えば日本人は朝食でお米や納豆や魚を食べますが、一方イタリア人はコーヒーとお菓子を好みます。

パッパルデッレ・アル・ラグー　材料が手に入らず日本で作れなかった料理（パッパルデッレはパスタの一種）

（毛利）ここ日本に住んでいるあいだ、あったらいいなあと思ったものは何かありますか。

（エレナさん）はい。日本に住んでいたとき、イタリアでは普通にスーパーで見つかるのに日本ではあまり見かけない食べ物で、あればいいのになと思ったものが幾つかあります。例えば、熱処理したハムや生ハム、リコッタチーズ、様々な種類のチーズ、そしてズッキーニ（ズッキーニの花）などです。私がイタリアで毎日作っていた料理を作るのは難しかったです。

（毛利）最後に、もしよろしければ北海道日伊協会の会員に一言。

（エレナさん）北海道日伊協会会員の皆様には、協会の活動に積極的に関わる機会を与えて頂いたことにお礼を申し上げたいと思います。特に、私を協会に招待し紹介して下さったエリーザ先生、北海道でイタリア語教師として働くことを可能にしてくださった菅原さん、協会の特別会員という肩書きを与えてくださった協会の皆さんにお礼の言葉を申し上げたいと思います。この（日本に滞在していた）月日に多くの新しいことを学ぶことができ、また日本でもイタリアがどれほど人気があって、日本人に愛されているかを教えてくださった素晴らしい人たちともお知り合いになれました。また全ての私の生徒さんにも、イタリアの言葉と文化に情熱を傾けてくださったこと、そして勉強に専念してくださったことを感謝したいと思います。これからもずっと協会との協力関係を続け、イタリアのますます多くの面を日本で知って頂くことができれば、と願っております。

②エレナさんのサローネに参加して

～水の都とロマンスの街！巡り巡る世界遺産のヴェネツィアとヴェローナ～

大和達也（理事）

サン・マルコ広場

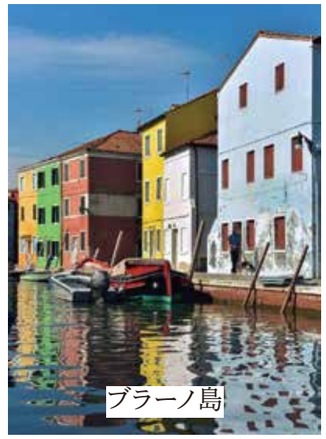
2022年9月4日(日)、2年7ケ月ぶりの対面式のサローネを実施した。

参加人数は、やはりコロナ禍ということもあり14名と少な目ではあったが、エレナさんの熱心な講演に参加者は大満足のサローネとなった。

内容は、エレナさんがヴェローナ出身でヴェネツィア大学卒業であることから、ヴェネツィアとヴェローナについて御自身が撮影した写真をもとに多くの見所について様々な逸話を交えて講演が行われた。写真はコロナのロックダウンで観光客のいない珍しい写真が多かった。

前半の30分はヴェネツィアについて、まずは有名なドゥカーレ宮殿、リアルト橋、サン・マルコ広場、ムラーノ島、ブラーノ島等の紹介。次に、観光地としては知られてはいないがサンテラズモという島があり、農業が行われ、カルチョーフィ・ヴィオレットという品種のアーティーチョークが特産。

後半の30分はヴェローナについて、ここでも有名なアレーナ、ジュリエッタの家、エルベ広場、シニョーリ広場等の観光地を古代、中世など年代別に紹介した。講演の中で、劇作家シェークスピアはヴェローナには行ったことがないということ、ジュリエッタ宛に届く毎年約5000通の恋愛相談の手紙に、「Club di Giulietta」所属のジュリエッタの秘書達が返事を書いていること。多言語で対応しているので日本語でも恐らく可能とのこと。


ブラーノ島

アレーナ

そして、シニョーリ広場にはダンテ像があり、ダンテがヴェローナに住んでいたとき、「神曲」の天国編を書いた等の興味深いお話が聞けた。

～参加者からの質問～

●どのようにしてカルチョーフィを食べるのか？

茹でるなど火を通すことが多く生ではあまり食べない。ちなみに、カルチョーフィで有名なサンテラズモ島はヴェネツィアの農業の中心地で自然豊かな島。観光地ではないが、行く事は可能である。

●ヴェネツィア大学の場所はどこ？

一カ所ではなく、学部によって異なる。理系学部はメストレ（本土側）にある。

●ヴェネツィア大学の日本語専攻の生数は？

リアルト橋

多い時で350人くらい入学するが卒業するのは半分以下になる。やはり、入学してからの講義やテストが思っていた以上に難しいのだろう。

参加者の方々はまだまだ質問をしたい様子であったが時間切れとなった。しかし、サローネが閉じた後も、参加者との雑談や撮影会があり、名残惜しい心から感謝し、そして今後の活躍を祈りたい。

ランベルティの塔

ということ感じがあった。エレナさんはこのサローネの2週間後にはイタリアに戻り、来年3月に修士課程を卒業する予定である。今後、エレナさんは北海道日伊協会特別会員として当会に関わることになる。

最後になったが、忙しい中サローネの講師を快諾し、楽しい時間を提供してくださったエレナさんに

サローネの様子